

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470201419
法人名	株式会社 ツクイ
事業所名	ツクイ大街道グループホームサンフラワー
所在地 (電話番号)	石巻市大街道北二丁目2-27 (電 話) 0225-92-5575
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年12月17日

【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16 人, 非常勤	人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 350 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	8 名	要介護2	6 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.7 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大街道じゅんクリニック, ササキ歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商店街の中心に位置し、表通りは交通量も多いが、近くにはファミリーレストランやスーパーがあり買い物をしながら散歩をしたり、外食をしたりすることの出来る便利などところもある。気軽に立ち寄ってもらえるグループホームを目指しており、地域で行われる敬老会や盆踊り、小学校の行事などに積極的に参加している。また事業所主催の夏祭りには近所の人も参加し、盛大に行われている。日常の外出支援も天気の良い日や入居者の気分により、散歩や買い物に出かけており、月に1回のドライブには施設のバスを使って遠くまで出かけるなど気分転換やストレスの発散に役立っている。入居者の通院も家族の負担にならないようにと事業所が行っている。職員の忙しいながらも明るく世話をしている姿が印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では地域との取り組み強化を指摘されている。現在は地域の一員として、地域で行われる行事に積極的に参加している。また事業所主催の夏祭りには隣近所の人も参加し、盛大に行われている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を事前に職員に配布し、一人ひとりに記入してもらい、まとめたものを全員で討議している。評価で見いだされた問題点については改善計画をたて、実施に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	グループホームの活動報告をしたり、グループホームに対する意見や質問、要望を受け回答するなど、意見交換をし、サービスの向上に活かしているが、4ヶ月に1回の回数となっている。自己評価や外部評価で明らかになった課題について報告するなど事業所側から問題を提起し、2ヶ月に1回の会議となるようにお願いしたい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	サービスに関する相談や苦情については、お客様相談窓口で常時受け付けている。また、市の介護保険課や国保連にも相談・苦情申告が出来ることを重要事項説明書に掲載し、説明しているが、第三者委員が掲載されていない。第三者委員を運営推進会議の委員をお願いするなどして、重要事項説明書に記載し、外部にも意見、不満、苦情を表せる場があることを繰り返し説明することをお願いしたい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	気軽に立ち寄ってもらえるグループホームを目指しており、地域で行われる敬老会や盆踊り、老人クラブの活動、小学校の行事に積極的に参加している。中高生や専門学校生によるボランティアの受け入れ、また事業所主催の夏祭りには隣近所の人も参加し、盛大に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念であり、気軽に立ち寄ってもらえる施設作りをうたっているが、今後現状にあった理念に検討する予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念の唱和をし、確認している。言葉かけ、態度、記録など日々のサービスの提供場面において理念が実践の中に活かされるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	気軽に立ち寄ってもらえるグループホームを目指しており、地域で行われる敬老会や盆踊り、老人クラブの活動、小学校の行事に積極的に参加している。中高生や専門学校生によるボランティアの受け入れ、また事業所主催の夏祭りには隣近所の人も参加し、盛大に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を事前に職員に配布し、一人ひとりに記入してもらい、まとめたものを全員で討議している。評価で見いだされた問題点について改善計画をたて、実施に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動報告をしたり、グループホームに対する意見や質問、要望を受け回答するなど、意見交換をし、サービスの向上に活かしているが、4ヶ月に1回と少ない。	○	自己評価や外部評価で明らかになった課題について報告するなど事業所側から問題を提起し、2ヶ月に1回の会議となるようお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議や外部評価の際に来てもらったり、必要に応じて相談や報告をしている。さらにホームを理解してもらうような積極的な働きかけをしていただきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時に必ず入居者の状況を伝えている。また来訪が困難な方に対しても毎月1回行事や近況を載せた「サンフラワー便り」、金銭の立替一覧表及びレシートを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスに関する相談や苦情については、お客様相談窓口で常時受け付けている。また、石巻市介護保険課や国保連にも相談・苦情申告が出来ることを重要事項説明書に掲載し説明しているが、第三者委員が選任されていない。	○	第三者委員を運営推進会議の委員にお願いするなどして、重要事項説明書に記載し、外部にも意見、不満、苦情を表せる場があることを繰り返し説明することをお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えている。異動があった場合は、入居者へのダメージを極力防ぐため普段から別の棟にも顔を出すようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人月1回ぐらいの研修機会がある。報告は伝達研修の際に行い全職員で勉強している。資格取得に対しては、シフトのなかで支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会の相互研修や実践者研修で情報交換をしている。同じ法人の中のネットワークでは仙台にある事業所と定期的に勉強会をして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始前に計画担当とスタッフが会いに行き本人や家族の困っていることを把握し、話し合ったり、見学やショートステイ、一時帰宅などを行いながら馴染んでいくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、ゴミ箱作り、畑仕事、洗濯物たたみなど分担が決まっています。得意分野で教えてもらったりしながら一緒に行っている。終わった後は「ありがとう、助かっているよ」など声をかけてお互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者一人ひとりの思い、暮らし方の希望意向などの把握に努め、要求に合わせたケアを実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、関係者の思いや意見を聞き、職員全員で話し合い介護計画を作成している。出来上がった計画書は、家族に説明をして渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度は介護計画について、入居者や家族の意向を確認し、見直しを行っている。緊急に見直す必要がある場合はその都度話し合い、計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に通院は事業所が行っている。外出、外泊支援などは柔軟に対応している。空き室がある場合はショートステイを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望しているかかりつけ医に職員も同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。現在9名がかかりつけ医を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた場合の対応の仕方については、事業所としての方針は出来ている。まだ元気な方が多いのでホームの姿勢、考え方は話しているが、意思確認書の作成には至っていない。	○	早い段階から本人や家族、かかりつけ医と話し合い事業所が対応できるケアについて説明し、意思確認書を作成することをお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の取り扱いについては、すべての職員が理解している。居室への出入りは本人の理解を得てからしている。排泄に関することは本人にそっと耳打ちをし、プライドを傷つけないようにしている。月一回の勉強会があり職員の意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事時間、外出など本人から希望があったことは、優先的にその場で、その日のうちに出来るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に買い物に行き、好みにあった料理を作り、食事は同じ席で同じ料理と一緒に食べ和やかな雰囲気できりげないサポートをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、何時でも入浴できる。入居者一人ひとりのその日の気分や体調に合わせて入浴できるように支援している。入浴を拒む人もいるが、無理じいはしていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、畑仕事、料理、洗濯物の干し、たたみ、散歩、買い物、寺めぐりなど入居者一人ひとりが役割、楽しみごと、気晴らしを持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や入居者の気分により、散歩や買い物に出掛けている。月に1回のドライブや外食には津山町長谷寺、松島大観荘、矢本海浜公園、鮎川、平等沼、マリンパルなどに出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	そわそわしたり、荷物をまとめたり、ほとんどは動きでわかるので、出て行く時は一緒に歩くなどしている。見守りや声がけを大事にし、日中は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「ツクイ大街道サンフラワー消防計画」にのっとり年2回の避難訓練をしている。夜間を想定した避難訓練もしている。また地域の防災訓練にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量のチェック表を作成し、支援している。尚、栄養バランスやカロリーチェックは、併設施設のデイサービスセンターの栄養士に定期的に点検してもらおうようにしていただきたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や陽射しがまぶしかったり、暗かったりしない。換気が行われ、臭気や空気のよどみがない。個々の居室、共用空間など適温管理を行っている。季節を感じさせるイベントなどの掲示物が貼られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にはなじみのものを持ってくるように働きかけていて、本人にとって居心地のよい居室となっている。		